

(第3種郵便物認可)

「佐世保で造船続けるため」

社名と雇用、待遇は維持

SSK子会社化

佐世保重工業（SSK、本社・東京）が名村造船所（大阪市）の子会社となることが発表された。23日、SSK佐世保重造船所（佐世保市）の松瀬茂雄所長は「佐世保でもづくりを続けるための統合」と強調した。造船業界では海外メーカーとの競争が激化する「ことが予想され、10年先を見据え、生き残るための判断」としている。

SSKの3月期決算によると、売上高は前年比13・8%減の309億円、税引き後利益は28億円の赤字。船舶の低迷や2000人規模の希望退職による特別損失が響いたが、新中期経営計画では2015年度の黒字化を目指すとしていた。

佐世保重造船所で報道陣の取材に応じた松瀬所長によると、今年2月から両社間で経営統合の協議が始まり、開発や資材の調達でメ

リットがあり、迅速な決定が可能として子会社化が決まったという。SSKの社名は残り、従業員749人の雇用や待遇は維持される。

幹部社員に子会社化について説明したSSKの森三四取締役は「社員に動揺はあるかもしれないが、前向きな統合だと説明した」と述べた。さらに「伊万里（佐賀県）に工場がある名村造船所は距離的に近く、これまで人的交流がある。ベ

ストの選択」と強調した。SSKは旧海軍工廠（うしや）の施設を引き継いで1946年に創業。貨物船の造船や修繕などを手がけ、下請けや協力する地場企業も多く、佐世保地区の産業の一

角を担ってきた。

SSK労組の江口茂広委員長は「会社から説明はあったが人に手をつけることはないということだった。名村のいいところを取り入れ、組合員の待遇改善につなげたい」と話していた。佐世保市の朝長則男市長は「黒字化の計画は進んでいると思うので驚いている。効率的な運営で効果が最大限に発揮されることを期待している」とするコメントを出した。